報道機関各位

2026年 5月 29日

株式会社アイガー

高校無償化で“私立シフト”は進むのか

学費ナビ小中高版、実質負担比較を開始

“行けない学校”が“選べる学校”に変わる

2026 年度から拡充される高校授業料支援制度により、私立高校を進学先として検討する家庭が増える一方、“実際にいくらかかるのか分かりづらい”という課題が浮上しています。

株式会社アイガー（東京都千代田区）は、累計 1600 万 PV を超える学費比較サイト「学費ナビ　小中高版」において、高校授業料無償化に対応した“実質負担額表示”機能を 2026 年 5 月 29 日に公開します。

これまで「私立は学費が高い」というイメージから進学を諦めていた家庭でも、制度適用後の実際の負担額を確認しながら学校比較が可能になります。学費ナビ小中高版では、無償化適用後の学費と未適用時の学費を比較表示し、小学校から高校まで 12 年間の学費シミュレーションにも対応。進学にかかる“本当の負担額”を見える化します。

高校授業料無償化によって、私立高校への進学を検討する家庭はさらに増加するとみられています。一方で、保護者からは「制度が適用されると実際にいくら負担するのか分かりづらい」「学校ごとの違いを比較しにくい」という声も少なくありません。

学費ナビ小中高版では、各学校の学費に対して無償化制度を反映した“実質負担額”を表示。制度適用後の負担額と、未適用時の学費を比較しながら学校検索ができます。



【写真 1】無償化未適用の場合と学費を比較することが可能

例えば、年間授業料が高額な私立高校でも、無償化制度適用後には保護者負担額が大きく軽減されるケースがあります。従来は「学費面で難しい」と考えられていた学校が、現実的な選択肢として見えてくる家庭も増えそうです。

また、学費ナビ小中高版では、小学校・中学校・高校を自由に組み合わせた「12 年間シミュレート」に対応。高校だけではなく、子どもの教育費全体を見据えながら進学パターンを比較できます。

物価高や教育費負担への不安が続くなか、学校選びにおいて“学費の見える化”の重要性はさらに高まっています。学費ナビ小中高版は、制度変更後の新しい学校選びをサポートしていきます。

■「私立は高い」が変わり始めている

高校授業料無償化の拡大によって、私立高校進学時の保護者負担は大きく変わり始めています。これまで「私立は学費が高くて難しい」と考えていた家庭でも、制度適用後の負担額を見ることで進学先の選択肢が広がる可能性があります。

しかし実際には、授業料以外にも施設費や教育関連費など学校ごとに必要な費用は異なり、「無償化＝完全無料」ではありません。制度内容も地域や世帯状況によって異なるため、保護者が“本当に必要な教育費”を把握する難しさがあります。

学費ナビ小中高版では、こうした複雑な制度や学費情報をできるだけわかりやすく整理し、比較しやすい形で提供。学校ごとの学費差だけでなく、制度適用後にどれだけ負担が変わるのかを可視化することで、進学検討時の判断材料として活用できます。



【写真 2】学費ナビ小中高版のスマホ画面

■ サービス概要

サービス名：学費ナビ　小中高版
公開日：2026 年 5 月 29 日
内容：高校授業料無償化に対応した実質負担額表示機能を公開
主な機能：

・無償化適用後の実質負担額表示
・無償化未適用時との比較表示
・小中高 12 年間学費シミュレーション
・私立／公立比較
・学校検索／条件保存機能

「学費ナビ　小中高版」
https://www.gakuhi-navi.com/

小・中・高 学費ナビ

■ 会社概要

会社名：株式会社アイガー
所在地：東京都千代田区丸の内 1-9-1　グラントウキョウノースタワー36F
代表者：代表取締役　木田裕士
事業内容：学校広報・ブランディング支援、教育関連メディア運営

■ 本件に関するお問い合わせ先

本プレスリリースに関するお問い合わせ先
株式会社アイガー経営管理局：齋藤、白木

Tel:03-3216-6111（直）t-saito@field.ne.jp

株式会社アイガー　経営管理局
TEL：03-3216-6111
E-mail：info@iger.jp